

# 大野城が築かれたわけ



さいめいてんのう  
 齊明天皇6年(660年)、  
 唐と新羅にせめられて、  
 百済の国はほろんでしまった。  
 国をたてなおすため、日本に  
 救援をたのんだところ、  
 齊明天皇や中大兄皇子  
 (のちの天智天皇)は、  
 筑紫までうつって  
 来られたのだ。

くだら きぞく  
 百済の貴族



ところが

天智天皇2年(663年)、  
 白村江の戦いで日本は  
 唐と新羅に敗れてしまった。



日本は急いで守りを固めることになり、664年に水城をつかって筑紫平野へ向かう道を完全にとざしたんだ。  
 水城をつくった翌年(665年)、北・南の山の上に大野城・基肆城が築かれたよ。  
 そのうち、これらの城の内がわに、九州をおさめ、軍事・外交にたずさわった大宰府がおかれた。そして大野城は大宰府の北を守る城となったんだ。



兵士とこまろ



はんちくどらい  
 版築土塁  
 (城壁)

砂と土を少しずつまいて、上から棒でつき固めることで、強い土塁(城壁)ができるんだ。大野城をめぐる城壁は全長8kmもあるよ。南北は二重に城壁をめぐらし、守りに強い城だったんだ。

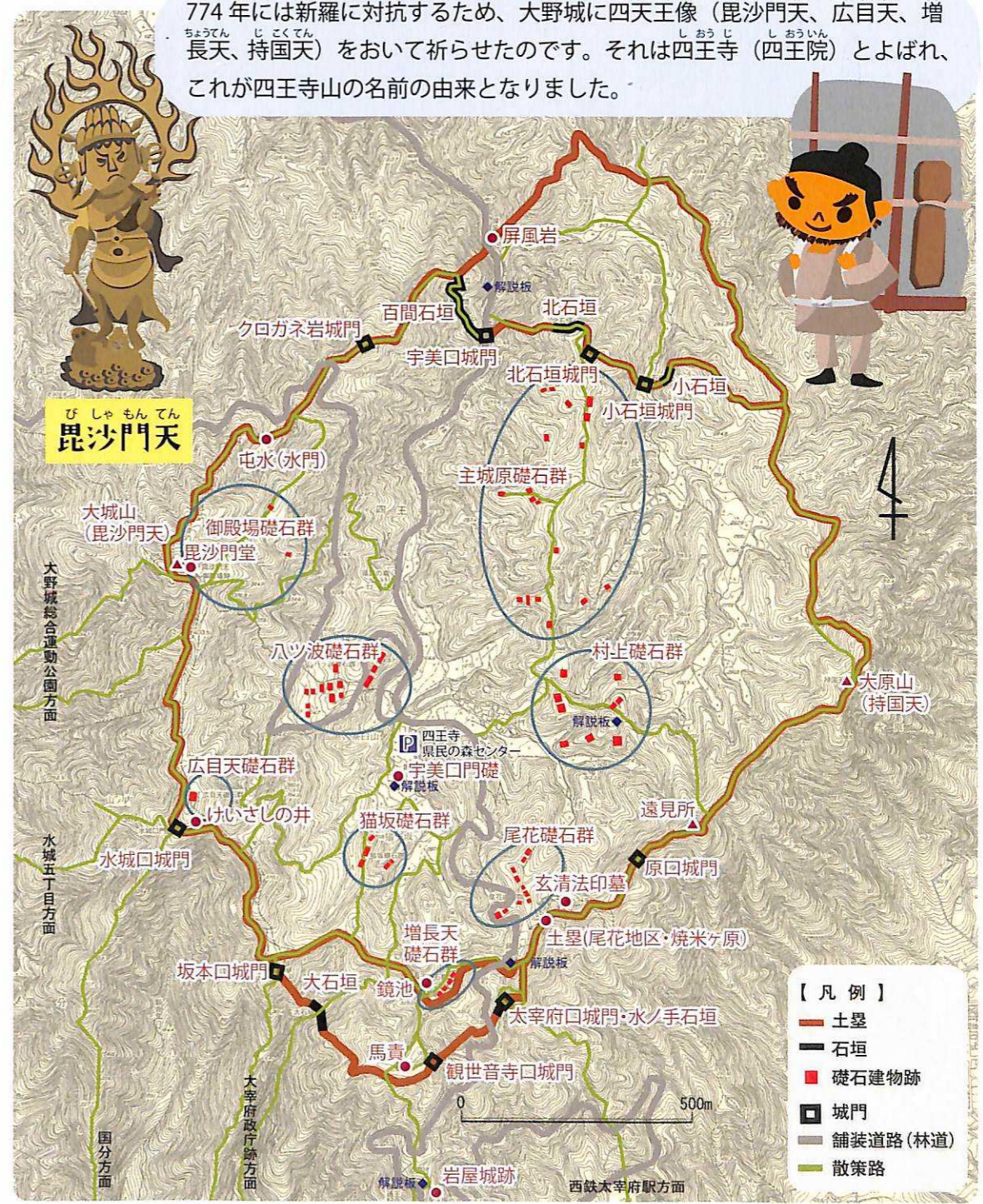


これが版築土塁だよ。(原口城門の東)



山の上に池や井戸もあるよ。(鏡ヶ池)

774年には新羅に対抗するため、大野城に四天王像(毘沙門天、広目天、増長天、持国天)をおいて祈らせたのです。それは四王寺(四王院)とよばれ、これが四王寺山の名前の由来となりました。



岩屋城跡(戦国時代の城)からの眺め



百間石垣



主城原礎石群



土塁(尾花地区・焼米ヶ原)



原口城門



太宰府口城門



増長天礎石群



水城口城門



坂本口城門



大石垣



観世音寺口城門

- 【凡例】
- 土塁
  - 石垣
  - 礎石建物跡
  - 城門
  - 舗装道路(林道)
  - 散策路



# 大野城

奈良・平安時代の  
ようすを想像して  
みました。

天智天皇4年(665年)、百済の貴族の指揮で築かれた山城です。  
四王寺山の山上に全長8kmの城壁をめぐらし、非常時にそなえました。  
奈良時代には、倉庫がたちならび、また四王院(寺)が置かれ、  
国のまもりをにないました。

発行日 平成27年8月  
企画 太宰府市教育委員会  
公益財団法人 太宰府市文化スポーツ振興財団(太宰府市文化ふれあい館)  
デザイン 毛利清隆

